

人口減少についての取り組みは

3年 角田 蒼斗さん

率低下や死亡数の増加)の2つがある。平成人ほどに対して死亡数は200人以上。年間加えて、就職や入学で県外に転出してしまっで1番出生率が低い東京に人が集中している

なければならない。

ける体制作りが必要。まずは町の一次産業で

来みなさんがさまざまな職を選択できるようでどこにいても仕事ができたり、SNSで全になってきている。町に残ってもなんら問題止められるのではないかと考えている。



将来農業の選択肢を増やすため、小中学生に田植え稲刈り体験をさせたり、会社を立ち上げてブランド化するのはどうか

質問者：2年 外崎 滯さん

「魚沼産のコシヒカリ」は有名だがコシヒカリ自体は米の品種に過ぎない。魚沼の人たちがよいお米、おいしいお米を作ろうと努力した結果、長い時間をかけて周りから認められたのが「魚沼産のコシヒカリ」というもの。ブランドを作るのではなく良いものを作るとブランドになっていくということを覚えてほしい。

稲作体験の機会が必要だと思うが、機会を待つのではなく家が農家の生徒は手伝いをしたいと思う。家族がやっていることを客観視して「自分だったらこうやるのに」という気づきがあれば、農業系の学校で学んでみたりする意味が出てくる。漁業も一緒。

また、ただ作って売るのではなくどう売ればより売れるか、消費者はどういうものを欲しがっているか、経営まで考えるといいと思う。

るという話が出ているが、補助金はでるピン人中学生と会話する機会がほしい

安さん

だったのかというと、「さまざまな言語を話を使ってきた歴史がある」から。だから母がある国ということ。

で人口が増えている国。今後の発展も見込子たちと話したいというのはとても嬉しい

討中だが、私としてはぜひ留学して知見をために留学したいという子がいれば、費用のかわり、ちゃんと勉強して、いろんなこ



宮越家静川園について、SNSでの発信のほか、理解を深めるために小中学生のボランティアで掃除ができないか

質問者：3年 長利 幸直さん

ぜひボランティアに取り組んでください。ただ、ボランティアなんてそう意気込んでするものじゃない。例えば小泊の海に遊びに行ったとき目についたごみを拾うとか、毎回でなくとも一人ひとりが自発的に行動するのが大事。機会を作ってもらって行うボランティアは長続きしない。拾うよりも捨てるほうが圧倒的に簡単だからごみが増えていく。世の中には公共の場で平然とごみを捨てる人が大勢いる。中泊町ではあまり見ない光景。みんなにはそうならないでほしい。

宮越家の話をすると、勝手に庭のごみ拾いをするのはさすがに厳しい。だけど、考えるいろいろな方法がある。教育委員会と話をしたり、町文化観光交流協会に相談して、ボランティアガイドだけでなく清掃ボランティアも募集してもらうとか。

自分から機会を作ってください。これからみんなが大学に入学すると、自分のやりたいことは自分で決めて、そのための手段も自分で考えないといけない。それが社会に出て問われる能力だと思うので頑張ってください。

、中泊町があるべき未来の姿は、「若い人が住め、働ける町」「インフラが整備され、生活基盤と賃金が改がら発展していける町」「ほかの人が住みたいと思える町」だという結論にいたった。

太さん

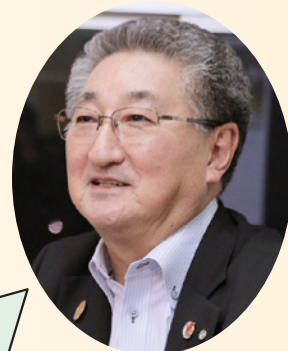
のを作成していて、中里地域と小泊地域の自然をできるだけ残しながら、働く場所やインフラを整備してまち計画です。

は何か？正解は町のインフラ、特に水道料金。なぜなら人口が減っても町中に張りめぐらされた水道管の延長なければならないから。道路インフラも同じことが言える。

ること。例えば4～5階建ての住宅を造り、再生可能エネルギーで維持費をまかなって一緒に住む。高齢者は層階。年を重ねると段々下の階へ降りてくる。そうすると、洪水で河川が氾濫したとしてもみんな同じ場所になる場所は高層階、若い人達は低層階の高齢者が逃げる手助けをする。これを垂直避難という。

活でも交流が生まれる。子供たちが学校から帰ってきたら低層階で遊び、高齢者のみなさんが見守る。子供たクが減少する。家族が仕事終わりに帰ってきたら、上の階でそれぞれの生活に戻る。こうすることで住んでいの考えを「ウィンドビレッジ構想」と呼んでいる。

人口減少社会を生きていくためには、昔のようにみんなが密集して助け合いながら暮らしていく必要があると最低限の長さで済むだろう。



さん、中泊愛あふれるとてもよい意見交換をありがとうございました!!  
中学校で毎年順番に実施予定です。

